

映画・映像の「力」を信じて

にいがた映画塾は「映像環境団体」です



にいがた映画塾は新潟の市民団体です。そして「映像制作団体」ではなく、「映像環境団体」です。

私たちの活動について「公園」を例に出せば分かりやすいと思います。だれでもやって来ることができて、そこで

遊んだり、おしゃべりしたり、ボーっと過ごすことができる広場。最低限のルールはあるものの、何をやるのも自由。ただしここは行政の管理する公園ではありません。草むしりや遊具の手入れは自分たちでやらなければなりません。

ん。遊具の使い方も学ばなければなりません。

遊具とは映像。映像とは表現。ビデオの普及やデジタル技術の進歩によって、映像は絵画や写真などと同じ気軽な自己表現の手段となってきたのです。「自主映画」は映画の「ジャンル」として、いままでも増して活発となり、映像制作は当たり前で必要不可欠な創造活動になっていくでしょう。

つ素敵な力を知っています。自分の頭の中であふれていたイメージが、スクリーンやモニターの中で「現実」となって動く興奮。一方でイメージを的確にフィルムやビデオに焼き付けるには、技術はもとより恐ろしく具体的で入念な準備、段取りが必要で、衝動だけでは映画はつくれません。

自分自身へのこだわりが同時に求められます。そして大半の映画は一人ではつくれません。多くの仲間たちとの共同作業を通して、一つのものをつくりあげる喜びや達成感を共有します。そして自分たちは支え支えられる存在であることを知るのです。

多くの観客に見てもらおう上映では、まるで自分自身の内側まで見られているような緊張を感じます。そして拍手をもらった瞬間、それまでの苦労は昇華され、ときには厳しい批評にさらされることで、また次の作品をつくる活力となっていくます。



映像を「与えられるもの」から「創り出すもの」へ。それには環境が必要です。制作環境、機材環境、上映環境、批評環境…。私たちは、これらの課題をクリアしながら「新潟でだれもが自由に映画・映像づくりができる環境づくり」を目指します。そして人々が映画・映像について語る事が、当たり前前の風景になるような地域社会を目指します。

第4期映画塾で、受講生に講義をする青山真治監督



これまでの講師(順不同、カッコ内は肩書き)

県外

青山真治、今関あきよし、風間志織、佐藤真、廣木隆一、矢口史靖(以上映画監督)、手塚真(ヴィジュアルリスト)、鈴木卓爾(俳優・監督)、荒井晴彦(脚本家)、古澤敏文(プロデューサー)、藤澤順一(カメラマン)、かわなかのぶひろ、佐々木龍彦(以上映像作家)、鶴飼邦彦(映画編集技師)、安河内央之(照明技師)、多胡由章(助監督)

県内

小林茂(カメラマン・映画監督)、大倉宏(美術評論家)、伊藤拓也(テレビ局勤務)、櫻井雅也(テレビ局記者)、坂井敦(カメラマン)、ナシモト・タオ、野上純嗣(以上映像作家)、北野圭介(新潟大学助教授)、笹崎隆(ビデオカメラマン)、戸中井三太(演出家・俳優)、郡司健(シナリオ講師)、村井勇(写真家)

映画塾の活動は多方面に及んでいます。学ぶ、映す、聴く…。会員は何をやっても自由、周りはできる限り応援するのが原則です。多彩な活動によって映像制作に対する理解が広がり、会員一人ひとりにとって、地域がより「息のしやすい」空間となつていきます。

映画づくり基礎から学ぶ プロの映画人ら講師も多彩

映画塾(映像実践講座)

映像制作の魅力を教え、1期から九九年の第4期映像実践講座は、一九七七年一月に開講した第... これまで約百六十

人が卒業しました。カリキュラムは主に、フィルムやビデオの仕組みを学び、グループに分かれ卒業作品の制作に取り組みます。実践を徹底的に重ねていくのが本講座の特徴です。また、スタッフのほとんどが卒業生なのも特筆すべき点です。自分たちの経験を基に、より分かりやすく楽しい講座にするため、毎回試行錯誤を

座の特徴です。また、スタッフのほとんどが卒業生なのも特筆すべき点です。自分たちの経験を基に、より分かりやすく楽しい講座にするため、毎回試行錯誤を



ラジオ「Cinemaで愛して」

毎週日曜日午後五時から、新潟市の隣町、新潟市にあるRADIO C H A T(七六・DIEO C H A T)で放送しているラジオ番組です。企画から番組制作、機材操作まですべて会員の手で行い、映画塾の会員をゲストに個人的なトークを繰り広げています。メインパーソナリティーはフリーアナウンサーで会員でもある加藤真奈美さん。映画への愛にあふれるブログラムです。なお、この番組は放送エリア外の人にも聴けるように、映画塾のホームページ(映画塾コム)でもリアルストリーム放送をしています。写真「Cinemaで愛して」の収録風景

企画、制作まで手づくり

九九年五月から八月まで、毎週日曜日に行つた第4期は二十九人が受講。講師は映画監督の青山真治氏や脚本家の荒井晴彦氏、イメージフォーラムの講師でもある、かわなかのぶひろ氏ら十一人が担当しました。講座は三分程度のビデオ作品をつくることから始まり、映画理論、美術論、八ミリ映画実習など

をを行いました。今回初めて演技実習も取り入れ、新潟で劇団を主宰している戸中井三太氏の指導の下、受講生は身体表現を体験しました。卒業制作では、受講生

第4期と並行して、毎週土曜日には「シナリオ・ワークショップ」も初開催。三十四人が受講し、荒井晴彦氏や、新潟の映像作家ナシモト・タオ氏らの徹底的な指導を受けながら、シナリオという未知の文章創作に挑戦しました。映画塾は専門学校ではありません。映画・映像制作はだれにでもできる表現方法であると同時に、奥の深いものであることを一人でも多くの人に知ってもらおうと、インスタントに作品を生み出す映像家を養成すること、プロの映画人と交流することで日本映画の応援団になつてもらおうことなどを目指しています。

そしてその中から、将来の日本映画を背負って立つ新しい才能が生まれたいと信じています。

これまでの卒業作品

- 【1期】デジタルマン(和田顕史監督/16ミリ/4分10秒) Dr.ブッシュ(佐々木毅監督/16ミリ/3分30秒) NEO NORMAL(更科ヒトシ監督/16ミリ/3分50秒) Canvas(三浦威監督/35ミリ/4分20秒)
- 【2期】記憶の記録(井上朗子監督/16ミリ/4分52秒) 太陽の博覧会(小林優子監督/16ミリ/4分50秒) 暑がり(高橋秀樹監督/16ミリ/4分52秒)
- 【3期】L(真保巖監督/16ミリ/10分) みつ(田巻源太監督/16ミリ/10分) STEP(南由佳子監督/16ミリ/10分)
- 【4期】月の下は(神尾一実監督/8ミリ/15分) 少女の館(小林康紀監督/16ミリ/11分) Birthday(佐藤志歩監督/8ミリ/10分) 舞い(青柳透監督/ビデオ/7分) パンダ(富永雅彦監督/8ミリ/10分) 崇とその仲間たち(木原大吾監督/ビデオ/30分) 王様と裸(中野敏寛監督/8ミリ/45分) ひとやすみ(関谷洋美監督/8ミリ/28分)

設立から現在までの歩み

- 1996年
 - 11月1日 映画「白痴」(手塚真監督)の新潟撮影盛り上げの一環として、有志がにいがた映画塾実行委員会を結成
- 1997年
 - 1月12日-3月30日 第1期映画塾(全10回、70人が受講)
 - 7月6日-8月31日 第2期映画塾(全11回、30人が受講)
 - 11月23日 「第1回にいがたインディーズムービー・フェスティバル」
 - 12月5日 課外講座「恋、した」上映会(廣木隆一、風間志織、田口トモロヲ、嶋田博子、塩田時敏の5氏を招く)
- 1998年
 - 5月10日-7月26日 第3期映画塾(全14回、32人が受講)
 - 11月1日 にいがた映画塾を市民団体として設立
 - 11月22日 「第2回にいがたインディーズムービー・フェスティバル」
 - 12月2日-12月8日 小林茂「こどもの宇宙(そら)」(「阿賀に生きる」撮影・小林氏の映像と写真展)定例上映会シネシネバンVol.1(映画塾卒業作品特集)
- 1999年
 - 1月8日 シネシネバンVol.2(石川浩之=3期=特集)
 - 2月12日 同Vol.3(ホームビデオでもココまでできる!特集)
 - 2月28日 PFFグランプリ「シンク」(村松正浩監督)上映
 - 3月12日 シネシネバンVol.4(大橋健一=3期=特集)
 - 4月9日 同Vol.5(真保巖=3期=特集)
 - 4月17日 映画「白痴」と市民プロデュース考座
 - 5月9日-8月29日 第4期映画塾(全17回、29人が受講)シナリオワークショップも併催、13人が受講
 - 5月14日 シネシネバンVol.6(金沢良美=1期=特集)
 - 6月11日 同Vol.7(新潟8ミリの復活)
 - 7月9日 同Vol.8(井上朗子=2期=特集)
 - 8月10日 16日 豊崎博光写真展 地球被爆・はじまりの半世紀(世界各地の核実験の現場と被爆者を写真に記録しているジャーナリスト・豊崎氏の写真展)
 - 9月10日 シネシネバンVol.9(加藤陽子=4期=特集)
 - 10月8日 同Vol.10(野上純嗣=講師=特集)
 - 10月16日 矢口史靖ムービードライブ(映画塾講師も務めた矢口史靖監督を招き、作品上映)
 - 11月20、21日 「第3回にいがたインディーズムービー・フェスティバル」
 - 12月5日 FMラジオ番組「Cinemaで愛して!」スタート
 - 12月10日 シネシネバンVol.11(佐藤広一=特集)
- 2000年
 - 1月29日 新規定例上映会シネバン2000Vol.1(五十嵐匠=映画監督=特集)
 - 2月27日 シネバン2000Vol.2(寺田裕之=映像作家=特集)

全国の秀作も紹介

上映会



第3回インディーズ・フェスティバル

ば、発表する場も必要だ。そんな考えから九七

にいがた映画塾の多彩な活動

「インディーズムービー・フェスティバル」は始まりました。一時は自主映画が壊滅した新潟では、約十年ぶりの自主映画祭です。同フェスティバルは九年までに三回開催し、東京、名古屋、山形など県外の応募作品も含め七十本の作品を上映しました。この観客を集めました。

写真展やシンポジウムも

各種イベント

映画塾主催のイベントは会員の発案から始まります。「やりたい人を応援する。ケチをつけません」のが基本的な姿勢。このため、映画に関する

の村松正浩監督のPFF

た。第三回はのべ二百八十人が来場。会員にとつては、この映画祭の出品に備えて作品制作をするという一つの目標になっています。これと平行して、映画塾では九八年十二月から、毎月一回の定期上映会も行っていきます。「シネバン」と名付けた上映会は、映画塾会員の作品を上映し、毎回四十人ほ



師を務めている矢口史靖監督(「アドレナリン・金」だけを足りませんが...

ジャンルを超えて 協力関係を模索

交流

機材の使い方を覚え

り、県外の映像団体や各種団体とさらに交流を深め、映像への理解を広げるとともに、お互いが支え合える存在でありたいと願っています。

ば、優れた映画・映像作品がつくれるものにはあります。映画・映像は音楽や工芸、空間デザインなど、あらゆるものをのみこむ総合芸術です。他分野の優秀な人たちと協力関係を結ぶため、各方面と活発な交流も行っています。

口監督の自主映画作品上映などを開催しました。イベントを手伝ってくれる仲間、ノウハウ...。映画塾にはイベントを実現させる多くの要素

矢口史靖監督の作品上映イベント

会員募集

映画やビデオを撮りたい。映像に関心がある、シナリオを書いている、プロを目指したい、映画・映像制作の仲間を募りたい... そんな人が集い、映画づくりを学ぶために「にいがた映画塾」は市民団体として会員を募集中です。

「にいがた映画塾」は会員自らが運営し、事業を企画します。これらさまざまな企画は「映画塾通信」を発行して参加を呼び掛けます。

「にいがた映画塾」はあなた次第です。ぜひご入会下さい。

募集要項

会員 資格は問いません。どなたでも参加できます
会費 月額500円、同1000円、同2000円、年額3000円のいずれかから選べます。

月額会費は年一括払いもできます。
金額の多少による特典の差はありません。あなたと映画塾の関わり方で決めて下さい。

特典

「映画塾通信NG」が送られてきます 映画・映像機材を低額で借用できます 映画塾事務所を打ち合わせなどで利用できます 映画・映像制作の相談を受けられます。

申し込み方法

事務所まで電話、ファクス、はがき、E-mail (mail@n-eigajyuku.com) でお問い合わせ下さい。後日申込用紙をお送りします。

申し込み・お問い合わせ先(電話は夜7時以降にお願いします)

〒950-0086 新潟市花園2-3-2 飛鳥ビル1F にいがた映画塾事務局

電話・ファクス 025-248-9088

025-248-9655(「SASAZAKI」内)

にいがた映画塾概要

役員

- 代表 矢部孝男
- 副代表 笹崎隆、星龍雄
- 事務局長 五十嵐政人
- 会計 長谷川幸枝
- 会計監査 福島春夫、堀浩

運営費用 会費で運営(映像実践講座は受講料と、新潟県、新潟市の各文化振興財団の助成金で運営)

会員数 214人(99年12月末現在)
99年度決算(98年11月 99年12月)
収入83万5928円、支出68万1999円
2000年度予算(2000年1月 12月)
収入、支出とも88万8000円を予定

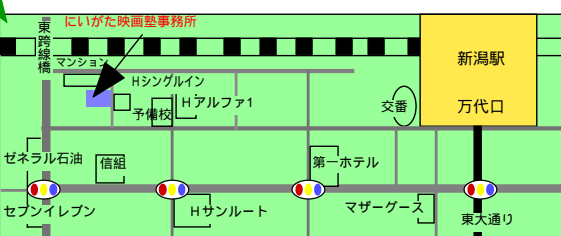
事務所 〒950-0086 新潟市花園2-3-2飛鳥ビル1F
電話・ファクス 025-248-9088

E-mail mail@n-eigajyuku.com

映画塾コム(ホームページ)

www.n-eigajyuku.com

事務所はJR新潟駅から徒歩5分



にいがた映画塾コム www.n-eigajyuku.com



「にいがた映画塾には一つの「メディア」があります。「映画塾通信NG」というこの新聞と、映画塾のホームページ「にいがた映画塾コム」=写真=です。

映画塾に2つのメディア

早く詳しく発信

映画塾通信 NG!

「NG」は三カ月に一回、映画塾の各種情報を会員に郵送、映画館などで無料配布もしていただきます。

「NG」とは映画用語で「ダメ!」(No Good)の意味。常に現状に満足せず、前へ進んでいこうという願いが込められています。

機材を格安レンタル

映像制作の機材は高価なものも多く、個人で買いたいそえるにはよほどの決心が必要です。会員が気軽に映像作品をつくれるように、映画塾ではカメラや照明、映写機などを用意しています。これは会員であれば、専門業者に比べて格安の値段で借りることが出来ます。

業務用には中古ですが事務所に中古ですが業務用のビデオ編集機も

関連出版物・ビデオ

映像実践講座の記録集を無料で差し上げています(送料別途)。また卒業作品を収めたビデオを販売しています。問い合わせ、お求めは映画塾、025-248-9088へ。

【記録集】第1期(在庫少数)、第2期、第3期、第4期
【ビデオ】第1期 3期、第4期(各3000円、送料込み)

市販書籍【映画が街にやってきた 映画「白痴」新潟の記録】にいがた映画塾発足のきっかけになった、手塚真監督「白痴」の新潟側から見た感動ドキュメント=映画塾コムの写真内に表紙が写っています。『白痴』ボランティアや映画塾会員らで組織した「『白痴』の記録編さん委員会」編。映画塾発足時の活動、理念も詳しく紹介しています。275ページ、1500円(税込)。問い合わせ、お求めは発行元の新潟日報事業社、025-233-2100へ。

ご相談下さい

学校での「総合学習」の時間などにおける映像教育導入の相談
映画・映像の新潟口ケのコーディネートや現場

【題字】宮川直子

場スタツプあつせん
その他映像に関する
ことなら何でも

【NG2000年度PR
版編集】星龍雄